

経営比較分析表（令和元年度決算）

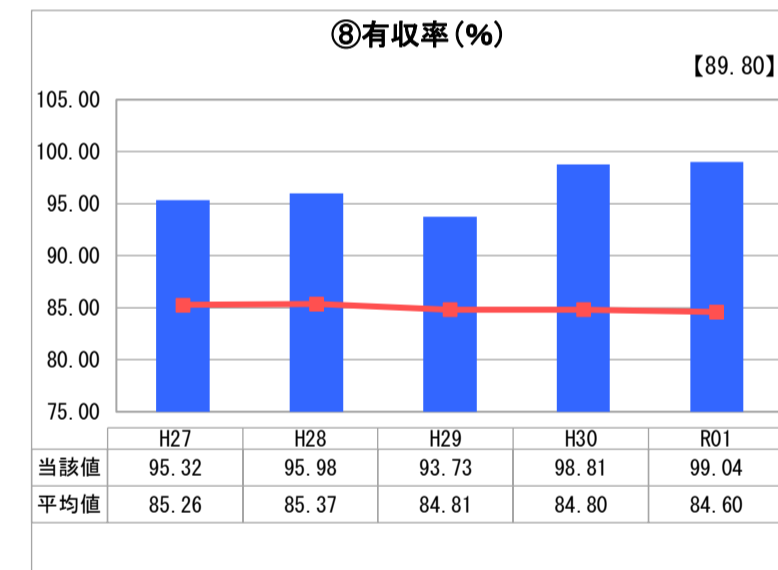
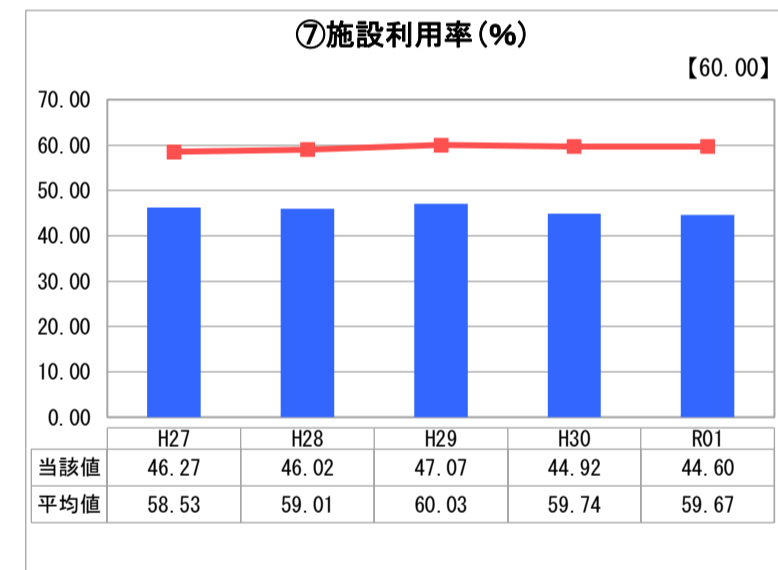
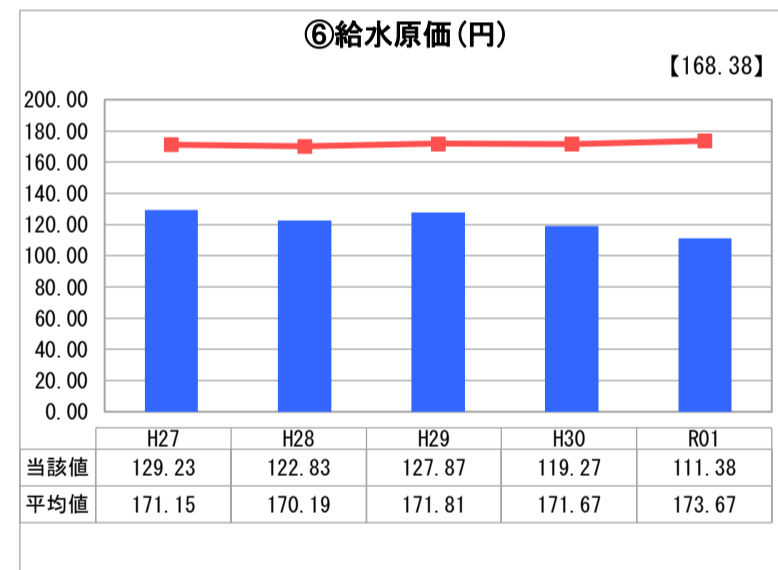
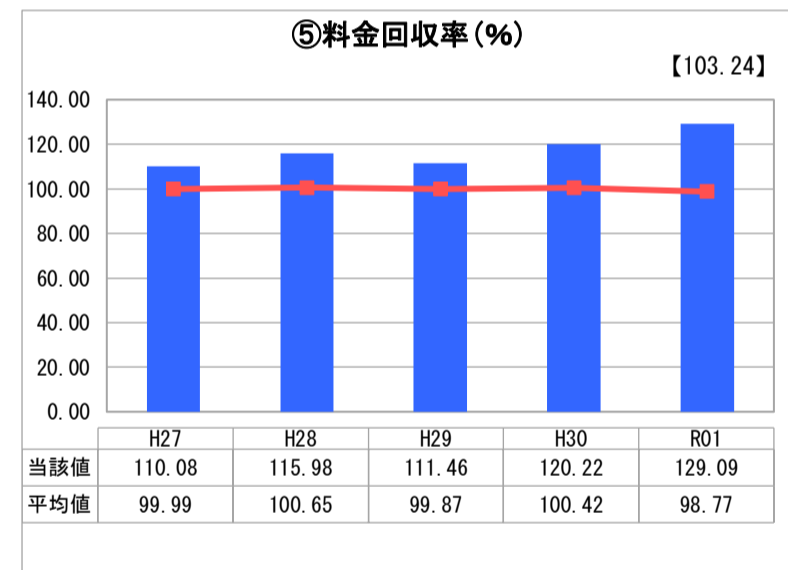
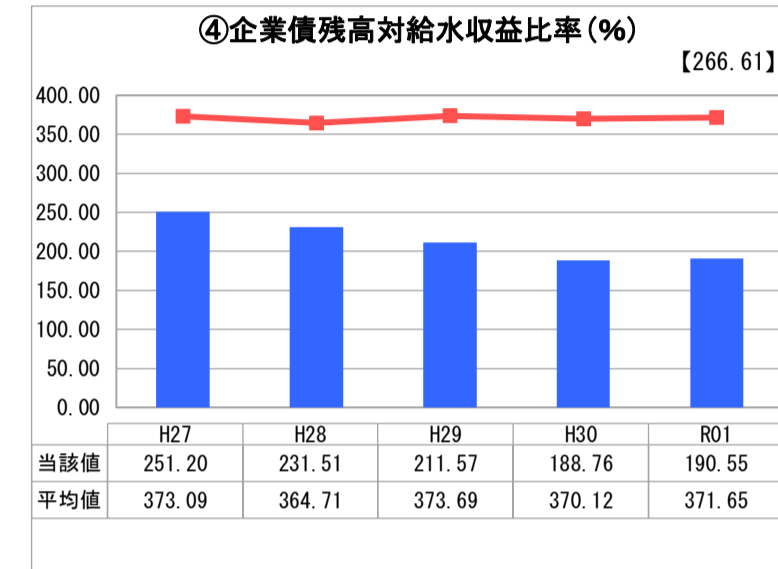
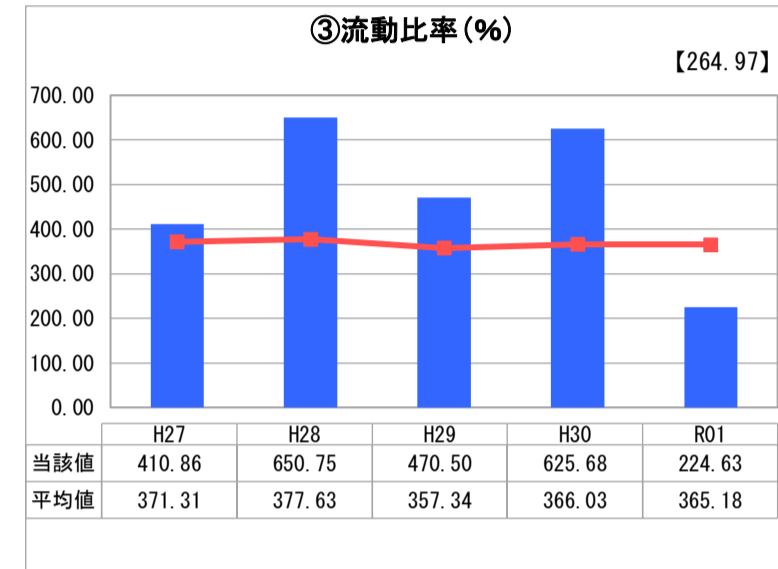
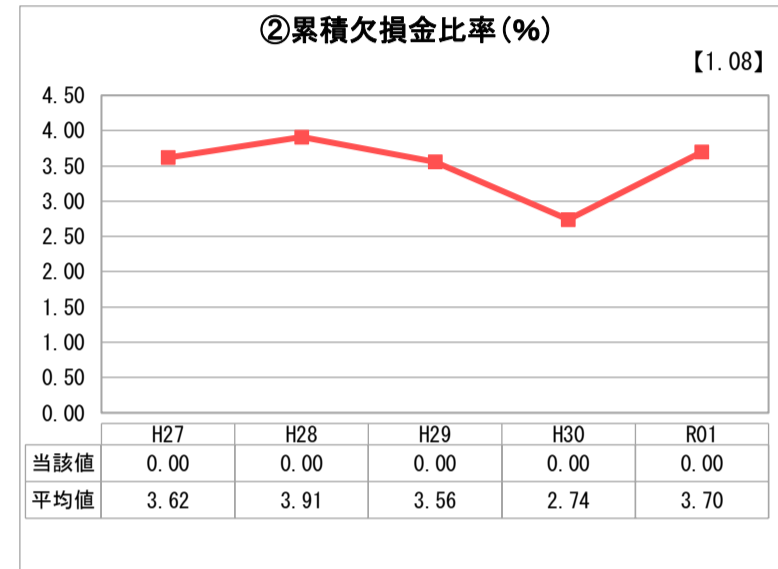
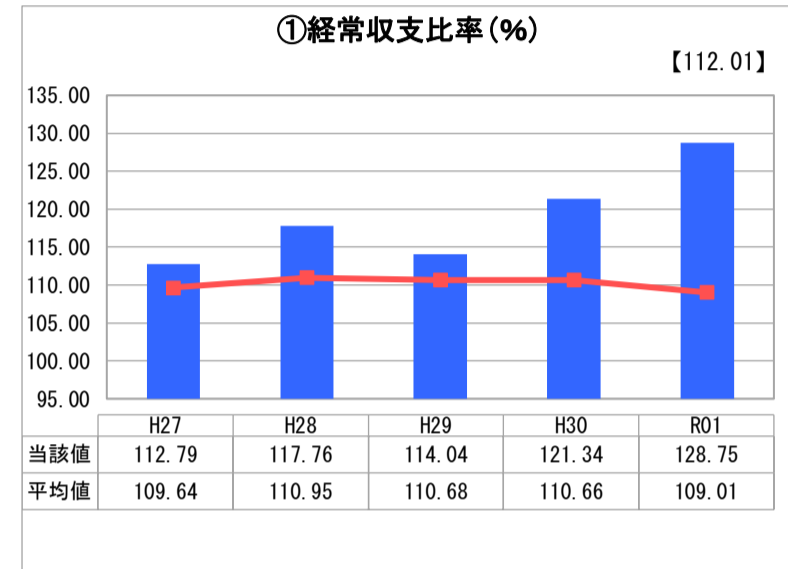
兵庫県 播磨町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.17	100.00	2,750	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,520	9.13	3,780.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
34,505	8.58	4,021.56

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

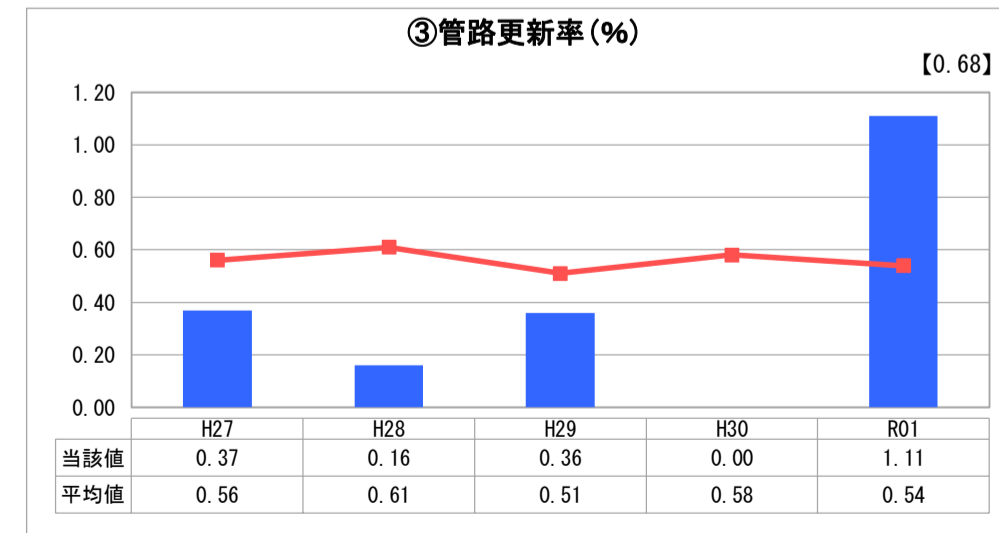
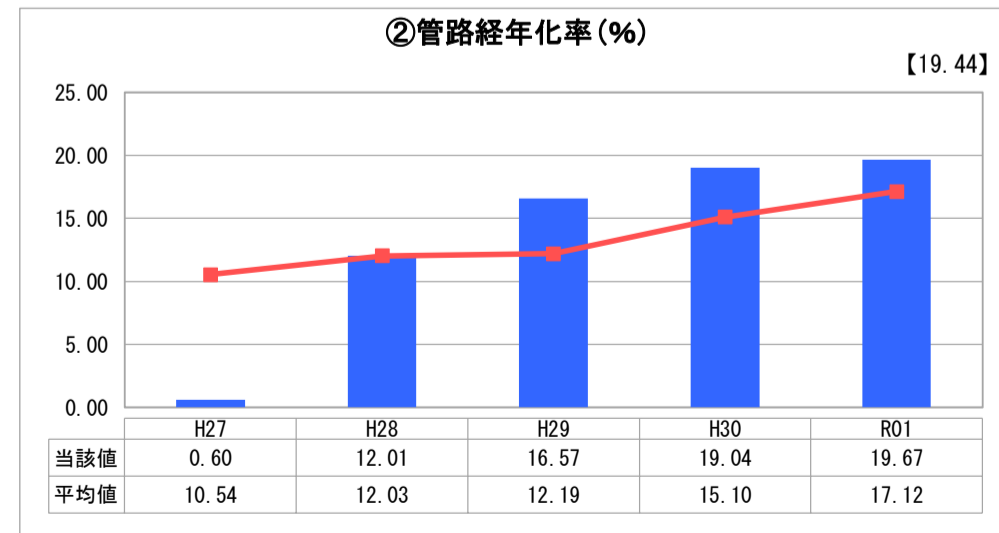
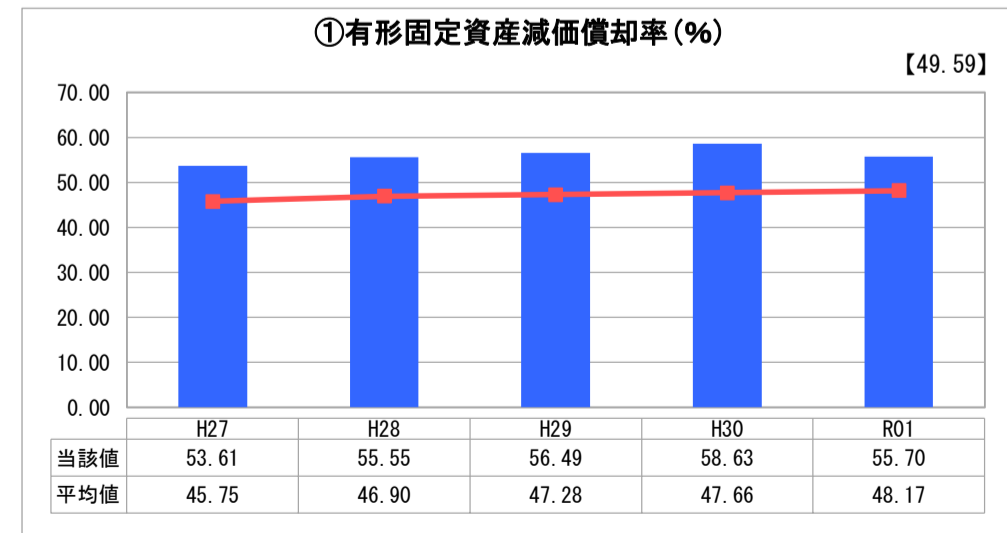
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は128.75%で、類似団体平均値を大きく上回っており、現時点では良好な経営状況であると言えます。③ 流動比率については、平成30年度との比較で大幅に減少し、類似団体平均値を大きく下回っていますが、これは、大中地区（第1工区）基幹管路布設替工事が平成30年度から令和元年度に繰越しになったことなどに伴い前年度と比較して建設改良工事が増加したことにより、一時的に流動負債が増加要因が生じたためです。ただ、今後も施設の更新に伴う建設改良工事の増加に伴い、資金の流出が進む見込みで、流動比率については減少傾向で推移すると思われます。④ 企業債残高対給水収益比率については平成12年度以降企業債の借入を行っていないため、数値は類似団体平均より大幅に低くなっていますが、令和元年度より老朽管の更新等に、企業債の借入を行っており、今後は徐々に数値が上昇する見込みです。⑥ 給水原価については、企業債利息の減少等により類似団体平均よりも低くなっており、⑤ 料金回収率も129.09%で、現時点では必要な経費を料金で賄えている状況です。しかし、今後老朽施設の更新事業を実施していく中で、減価償却費は増加し、また、企業債の借入に伴う支払利息も増加するため、数値は大幅に悪化することが予想されます。⑦ 施設の利用率については、類似団体と比較しても低位にあり、能力の半分も利用していない状況です。節水機器の普及等により水需要は低迷しており、長期的には人口減が予想されていることから、今後さらに低下する恐れがあり、適正な規模に施設を見直す必要があります。このため、令和2年度に水道管路のダウンサイズ計画を策定し、管路口径の適正化、経年劣化の進む管路についての更新の優先順位付けなどにより給水人口の減少などに伴う水需要の減少に対応することとしています。⑧ 有収率は高い数値にありますが、これは計画的に石綿管や鉛給水管の布設替を行ってきたことに加え、漏水が減少したことによるものです。しかし、人口急増期に集中して布設した配水管の老朽化が進んでおり、今後漏水が増加する可能性があり、有収率も悪化する恐れがあります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似団体と比較して、高い状況にありますが、浄水施設や取水施設（深井戸）、導水設備などの老朽化が進んでいることによるもので、資産の長寿命化を図りながら、計画的に更新を行う必要があります。② 管路経年化率については、人口急増期の昭和50年代に集中的に布設した配水管が法定耐用年数の40年を経過し始めたことに加え、平成28年度から一気に上昇しており、今後もその傾向が続く見込みです。③ 管路更新率については、大幅に増加し、類似団体平均値を大きく上回っています。これは、平成30年度から令和元年度に繰越した大中地区（第1工区）基幹管路布設替工事における老朽管の更新によるもので、今後も老朽管の更新を順次計画的に行っていく予定です。

2. 老朽化の状況



全体総括

短期的には経営上大きな問題はありませんが、長期的にみると、人口増加による給水収益の減少、施設の老朽化に伴う更新費用の増加などで経営の悪化が見込まれます。特に、昭和50年代に集中整備した配水管については、法定耐用年数を経過し始めていますが、耐震性の低いものが多いことから、計画的な更新を行うための体制整備と財源確保が課題となります。平成28年度に監査法人に委託し実施したアセットマネジメント（マクロマネジメント）及び財務分析、さらに、平成29年度に建設コンサルタントに委託し実施したアセットマネジメント（ミクロマネジメント）を踏まえ、平成30年度に経営戦略を策定しました。その経営戦略に基づき、老朽施設の更新にかかる財源等を確保するため、令和2年度に水道料金の適正な水準等についての検討に着手し、将来に向けて安定した持続可能な経営基盤の構築を目指します。